

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：14602
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2009～2012
 課題番号：21320047
 研究課題名（和文）東アジアにおける古典偽書の比較文化的研究

研究課題名（英文）Comparison research on classics forgery
 in east Asia

研究代表者 千本 英史 (CHIMOTO HIDESHI)
 奈良女子大学・人文科学系・教授
 研究者番号：50188489

研究成果の概要（和文）：

サンスクリット仏典での「偽書」のあり方、中国漢文文献における「偽書」の取り扱い方について報告を受け、討議・調査した。それらが東アジアの漢字文化圏（朝鮮・韓国、ヴェトナム、日本）においてそれぞれどのように受け継がれて、「偽書」を生み出していったかについて、調査し、個々の事例に則してその実態を考究した。この三国にあっては、ことに中国との関係をめぐって、また近代植民地支配の中での「偽書」の性格に大きな違いが見られた。

研究成果の概要（英文）：

The investigation of forgery in the Buddhism sutra and the classics work of China were done. The difference between those works and that of Korea, Vietnam, and Japan was discussed. There was a big difference in the character of forgery between these three countries. One of the causes is a relation to China. Another of the cause is a character of the nationalism of the modern state.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2010 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2011 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2012 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
総計	7,800,000	2,340,000	10,140,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：中世文学、偽書、東アジア

1. 研究開始当初の背景

このプロジェクトは、2000 年度～2002 年度科学研究費補助金（B2）「日本古典文学における偽書の系譜の研究」（研究課題番号：12410114）ならびに 2005 年度～2008 年

度科学研究費補助金（C）「日本古典文学における偽書の展開の研究」（研究課題番号：16520105）の成果を受け継ぐ形で進められた。

今回は特に、中国、韓国ならびにヴェトナム

ムでの研究調査の充実を図り、東アジアにおける「偽書」の位置づけの明確化を目指した。

2. 研究の目的

日本中世における偽書の生成と受容のあり方を、歴代中国王朝の書物文化、また日本同様その中国漢字文化の圧倒的な影響下に文化形成を成した朝鮮およびヴェトナムの書物文化と比較し、その特徴を明らかにしようとする。

共通の言語（漢字漢文）・宗教（仏教）を有する文化間で、偽書について見られる大きな性格の差違をどのように跡づければよいかを検討したい。そうして我々の判断基盤をなす「モノガタリ」性の、東アジア各国文化相互の差違、距離について考える。

3. 研究の方法

期間中、中華人民共和国に1回、大韓民国に3回、ヴェトナム共和国に3回渡航し、資料収集ならびにその地での研究者との交流によって、情報収集に努めた。このうち、2010年3月には、研究代表者の千本と、研究分担者（小川豊生撰南大学教授）、および二名の連携研究者（増尾伸一郎東京成徳大学教授、山口真琴兵庫教育大学教授）が揃って、北京日本文化研究センターにおいて開催された同センター等主催の国際シンポジウム「東アジアの今昔物語集と予言文学」に参加し、その成果は小峯和明氏編『東アジアの今昔物語集—翻訳・変成・予言』（2012年7月、勉誠出版、A5版718頁）に収録された。また2012年12月には、同じメンバーで、韓国ソウルの崇実大学で開催された説話文学会創立50周年記念韓国日語日文学会・説話文学会合同ソウル例会に参加した。その成果は現在笠間書院の手で、50周年記念誌に収録、出版されるべく編集集中である。

2011年10月15～16日に国際公開研究会「東アジアの神仏と文学 正典と『偽』なるものをめぐって」Part.1（第二日は仏教文学会支部例会との合同開催）、2012年6月30日に同Part.2を開催した。それぞれのプログラムは以下のとおりである。

○Part.1 2011年10月15日（土）
午後2時～午後5時
16日（日）

午前10時～午後5時

奈良女子大学 G棟101教室

【第一日】中間報告・ヴェトナムと韓国における「偽書の問題」

ヴェトナムに関しての中間報告
増尾伸一郎

韓国に関しての中間報告
千本英史

【第二日】公開研究発表（仏教文学会支部10月例会と共催）

インド大乘仏教における偽書・擬託の問題

—とくにナーガー ルジュナ（龍樹）の著作を中心に—

五島清隆（仏教大学非常勤）

神々との対峙

—伝李公麟筆「九歌図」は何を訴えたか—

楊曉捷（カルガリー大学教授）

親鸞の実像を求めて

—史料集型親鸞伝の登場—

塩谷菊美（神奈川県平塚商業高等学校教諭）

漢字・字喃研究所蔵文献における偽書

—『嶺南撫怪』『介軒詩集』と碑文を中心に
ゲン・ティ・オワイン（漢喃研究院准教授）

韓国の偽書をめぐって

—『揆園史話』を中心に—

金英珠（立教大学大学院後期課程）

偽書となった予言書 —韓国の予言書『鄭鑑録』と鄭氏真人説の日本伝播

松本真輔（韓国・慶熙大学校助教授）

○Part.2 2012年6月30日（土曜日）

奈良女子大学 D号棟120教室

率河神社をめぐる諸言説の生成と変遷

向村九音（奈良女子大学大学院）

朝鮮における仏典刊行と疑偽經典

増尾伸一郎

中国近代にとって「偽書」とは何か—「疑古

派」 「積古派」が見たもの、見なかったもの
谷口洋 (奈良女子大学教授)
偽書生成の源泉としての〈塔〉と〈虚空〉を
めぐって

山口眞琴 (兵庫教育大学教授)
海を渡る偽書
—愛染法の生成と不空仮託書をめぐって—
小川豊生 (摂南大学教授)

4. 研究成果

二年にわたる研究集会での発表に関し、さらに内容を増補精査し、また新たに 12 名の方の論文、コラムを加えて、『アジア遊学』の『「偽」なるものの「射程」—漢字文化圏の神仏とその周辺』(2013 年 3 月、勉誠出版)を公刊した。

冊子体ならびに CD-ROM 版による成果報告書 (A4 版「論考編」154 頁・「資料編」670 頁)を刊行した。この報告書は、公刊された『アジア遊学』では紙数の関係上収めきれなかった資料性の高い、五島清隆、金英珠、松本真輔、山口眞琴、向村九音、塩谷菊美の五氏 (以上収載順)の「論考編」と、日本、中国、韓国、ヴェトナムの偽書について考える際に必要な資料を収めた「資料編」の二部から成っている。

「資料編」では、一五年戦争時に植民地であった台湾の、台湾愛書会機関誌「愛文」に掲載された市島春城「日本の偽書大概」(この論文は今も日本の「偽書」の全体像を示している点では他の追随を許していないと考える)、マレーシア南方学院華人族与文化研究所所長の鄭良樹氏が、かつて香港中文大学での集中講義をまとめた『古籍弁疑学』の全訳、韓国の文筆家である金三雄氏が 2004 年に出版された『偽書』の古典偽書に関連する一九章の日本語訳、さらにヴェトナムの『漢喃書要目』の約四分の一のフランス語からの直訳での日本語訳、最新刊の『少数民族漢喃本書目録』第一巻、第二巻の「書目名」と整理番号との対照表 (この資料については、CD-ROM 版には検索の便宜を考えて、外字作成前の Word データをあえて添付収載した)が収めた。これらの「論考」および「資料」が今後の「偽書」研究において大きな力とな

ることを信じている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

(1) 千本英史、「『今昔物語集』の近世期における引用について—『御伝絵視聴記』と『十六夜日記残月抄』の場合—」、叙説、査読有、40 号、2013 年、pp. 162-174

(2) 小川豊生、「愛王の曼陀羅—伝田珍請来〈愛王騎獅像〉をめぐって」、アジア遊学、依頼稿、161 号、2013 年、pp.176-183

(3) 千本英史、「『今昔物語集』の「未来」、『東アジアの今昔物語集 翻訳・変成・予言』、依頼稿、論文集 (勉誠出版)、2012 年、pp.55-72

(4) 千本英史、「《座談会》『方丈記』八〇〇年」、文学、依頼稿、13 巻 2 号、2012 年、pp.2-36

(5) 小川豊生、「東アジアからみる院政期日本の宗教文化—北宋新訳経典と明王信仰をめぐって」、『東アジアの今昔物語集 翻訳・変成・予言』、依頼稿、論文集 (勉誠出版)、2012 年、pp.97-117

(6) 小川豊生、「〈赤白二滝〉考—日本中世における胎生学的知の根源をもとめて」、撰大人文学』、査読無、19 号、2012 年、pp.184-216

(7) 千本英史、「新聞「日本」と南方熊楠附・全集未収録論考「神前女子不脱帽一件」、アジア遊学、依頼稿、144 号、2011 年、pp.228-236

(8) 千本英史、「谷崎潤一郎訳源氏物語と南方熊楠」、叙説、査読有、38 号、2011 年、pp. 124-139

(9) 小川豊生、「偽書の生成—宗教芸文史における書物の観念をめぐって」、『中世の学芸と古典注釈』、依頼稿、論文集 (竹林舎)、2011 年、pp.48-68

(10) 小川豊生、「〈赤白二滝〉と〈和合〉の古典学—『伊勢物語髓脳』を起点とする中世日本の pneumatology」、『中世神話と神祇・神道世界』、依頼稿、論文集（竹林舎）、2011年、pp.401-419

(11) 千本英史、「『神仙譚』、『漢文文化圏の説話世界』、依頼稿、論文集（竹林舎）、2010年、pp.283-305

(12) 千本英史、「『お水取り』の文学」、ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集、依頼稿、8号、2010年、pp.79-96

(13) 千本英史、「鴨長明と数奇をめぐって」、国語と国文学、依頼稿、87巻9号、2010年、pp.1-16

(14) 千本英史、「公開シンポジウム「建築と説話 身体・建立・信仰」の視座」、説話文学研究、依頼稿、45号、2010年、pp.1-4

(15) 千本英史、「『今昔物語集』の狐」、朱、依頼稿、53号、2010年、pp.38-51

(16) 小川豊生、「修法空間と身体の建立—『瑜祇経』解釈学の世界から」、説話文学研究、依頼稿、45号、2010年、pp.19-28

(17) 小川豊生、「仏教学と神仏習合」、『漢文文化圏の説話世界』、依頼稿、論文集（竹林舎）、2010年、pp.120-140

(18) 千本英史、「清海曼荼羅覚書」、京都語文、依頼稿、16号、2009年、pp.30-45

(19) 小川豊生、「神話の建立—「偽書の中世」を超えるための方法序説」、古代文学、依頼稿、48号、2009年、pp.13-18

〔学会発表〕（計9件）

① 小川豊生、「中世宗教芸文における禪の強度—為兼・覚心・一遍・無住」、「今昔の会」研究発表会、2013/03/28、水月ホテル鷗外荘

② 千本英史、「鴨長明と方丈記 南方熊楠と『方丈記』—その訳稿からみるディキンス交遊と那智隠棲—」、第20回熊楠をもつと

知ろうシンポジウム、2012/10/27、南方熊楠顕彰館

③ 千本英史、「職人歌合」、日本文学における言説編成機能に関する日仏共同研究 国文学研究資料館とコレージュドフランスとの共同ワークショップ、2012/03/05、パリ第七大学

④ 千本英史、「南山城と奈良の縁起絵巻の世界」、「シンポジウム木津川ものがたり 縁起絵巻の世界」、2011/11/26、加茂文化センターホール

⑤ 小川豊生、「瑜祇塔の中世—法性塔婆図と『瑜祇経』解釈学の世界—」、仏教文学会支部例会シンポジウム、2011/09/17、摂南大学大阪センター

⑥ 千本英史、「鴨長明『発心集』—一人称叙述のありようについて」、日本文学における言説編成機能に関する日仏共同研究 2010年度シンポジウム「集と断片 日記と紀行の時空」、2010/09/10、早稲田大学国際会議場

⑦ 千本英史、「袋中上人絵詞伝をめぐって」、2010年絵入り本国際集会京都大会、2010/08/28、思文閣小ホール

⑧ 小川豊生、「五台山文殊信仰の日本受容と行基説話の生成」、今昔の会国際シンポジウム、2010/03/19、北京日本学術研究センター

⑨ 小川豊生、「修法空間と身体の建立—『瑜祇経』解釈学の世界から—」、説話文学会例会シンポジウム、2009/06/20、奈良女子大学

〔図書〕（計3件）

① 千本英史（編著）、勉誠出版、『「偽」なるものの「射程」』、2013、全269頁

② 千本英史（小峯和明編）、ミネルヴァ書房、『日本文学史 古代・中世編』、2013、pp.165-178

③ 岡崎真紀子・千本英史・土方洋一・前田雅之（共著）、平凡社、『高校生からの古典読本』、2012、pp.63-73・pp.94-95・pp.166-174・

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

千本 英史 (CHIMOTO HIDESHI)
奈良女子大学・人文科学系・教授
研究者番号：50188489

(2) 研究分担者

小川 豊生 (OGAWA TOYOO)
摂南大学・外国語学部・教授
研究者番号：50169190

(3) 連携研究者

山口 眞琴 (YAMAGUCHI MAKOTO)
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号：10158115

増尾 伸一郎 (MASUO SHINCHIRO)
東京成徳大学・人文学部・教授
研究者番号：60183943

谷口 洋 (TANIGUCHI HIROSHI)
奈良女子大学・人文科学系・教授
研究者番号：40278437